

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

8733

在宅透析助成事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	9	将来に向かって希望の持てる福祉社会の形成
施策	3	障害のある人の自立と社会参加の推進
取組方針	3	社会参加・自立に向けた支援体制づくり

事業区分(1)	事業経費		管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	民生費		
	項	社会福祉費		
	目	身体障害者福祉費		
	大事業	身体障害者福祉事業		
	中事業	在宅透析助成事業		

事業種別	継続		関連個別計画				
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	障害者支援課	西岡 貞晶	073-435-1060
事業実施の根拠法令	和歌山市在宅血液透析費の助成に関する規則			関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	在宅での血液透析を受けている者に助成金を交付することで、在宅透析を推進し、腎臓機能障害者の社会参加の促進を図る。		在宅での透析を可能にすることで、自宅で自分の生活時間に合わせて血液透析を受けることができるため、通院の負担が軽減でき、就労の時間等も確保できる。 また、血液透析の回数を増やすことで、体への負担も軽減することができる。			
事業内容	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	
		水道代月額分を一定料金助成する。	水道代月額分を一定料金助成する。	水道代月額分を一定料金助成する。	水道代月額分を一定料金助成する。	

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	0	0	624	342	384	336	384	0	384	0	
伸び率(%)	0%	0%	0%	0%	△38.5%	△1.8%	0%	△100%	0%	0%	
人件費	正規職員	0	0	2,398	2,336	2,497	2,497	0	2,497	0	
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計	0	0	2,398	2,336	2,497	2,497	0	2,497	0	
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	624	342	384	336	384	0	384	0	
一般財源(税等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
所要人数(人)	正規職員	0.00	0.00	0.00	0.30	0.29	0.31	0.31	0.00	0.31	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	扶助費										

3 目標及び実績

活動指標	申請数	指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
活動指標	申請数	件	目標値		17	17	17	17
			実績値		15	14		
			達成度(%)	%	88.2%	82.4%	%	%
成果指標	助成者数	人	目標値		17	17	17	17
			実績値		15	14		
			達成度(%)	%	88.2%	82.4%	%	%

4 事業の評価

評価基準				
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない
				減少している
				見直しが必要
				市が行う必要性は薄れている
				緊急性は薄い
				できない
				達成していない (70%未満)
				貢献度は低い
				できる
				見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	じん臓機能障害者の負担の軽減及び社会参加の促進を図るため、継続して行いたい。
見直し・改善内容	平成30年度からの事業です。